



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「学校基本調査」における専修学校関連データの推移に関する一考察：北海道の事例
Author(s)	上原，慎一
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要，128，41-54
Issue Date	2017-06-23
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.128.41
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66769
Type	departmental bulletin paper
File Information	040-1882-1669-128.pdf



「学校基本調査」における 専修学校関連データの推移に関する一考察

－北海道の事例－

上 原 慎 一*

【目次】

はじめに

1. 卒業後の進路状況

(1) 中学校卒業後

(2) 高等学校卒業後

2. 専修学校の設置状況と進学者の地域別特徴

(1) 設置状況

(2) 進学者・生徒の特徴

(3) 進路・進路指導への影響

まとめにかえて

【キーワード】教育訓練機関への進学，専修学校等への進学，専修学校の設置状況，ローカルトラック，地域間格差

はじめに

小論の目的は、北海道を事例に「学校基本調査」における（高校・大学）進学，就職以外の進路データ，および専修学校関係のデータの数的変動等から地域における進路の多様性を分析することにある。周知の通り，1975年の専修学校制度の整備以来，進路関連データの括りは「進学」，「就職」，「無業」，「その他」に加え「教育・訓練機関入学者」（1978～83年），「教育訓練機関等入学者」（1984～93年），「専修学校等進（入）学者」（1994～95年），そして専修学校の専門課程が独立カテゴリーとなった1996年からは「専修学校（専門課程）進学者」，「専修学校（一般課程）等入学者」（1996年から現在まで）と変化している。従来の進学や就職の動向に関わる研究や若年雇用問題に関する研究はもっぱら前者を対象にその歴史的傾向を把握してきた。また，専門学校⁽¹⁾に関する研究も狭義の専門課程に関する項目のみを取り上げることが多かった。小論は「一般課程等」に関する項目をも含めながら，その地域的・歴史的変動を確認する。その意義・目的は以下の点にある。

第一は，なによりもそれぞれの地域における専修学校への進学の地域的特徴が長期的に把握できることにある。具体的にはそれぞれの地域における中卒・高卒後の進学・就職状況を確認

* 北海道大学大学院教育学研究院教授
DOI : 10.14943/b.edu.128.41

した上で専修学校の学校数や学科数、生徒数の変動等を検討する。

ここで地域別というのは、北海道内の14の地域ブロック（かつては「支庁」、2010年から「振興局」）ごとの特徴という意味である。北海道の場合はこの14のブロックごとに学校基本調査のデータが整備されている。また、14の地域ブロックも以下の三つに分類できる。第一は圧倒的集積地である札幌市を含む「石狩」であり、第二は振興局の構想段階で「総合振興局」とされた主要各都市を含む地域⁽²⁾、第三はそれ以外の地域⁽³⁾である。便宜的に第二の分類を地方都市圏、第三の分類を地方圏とする。

第二は、ローカルな文脈での「雑多な」進路について長期的に考察できることである。ここであえて長期的というのは、特に専門学校研究に顕著であるが、定義が厳密である専門課程進学者に限定したデータにこだわる限り、その傾向は90年代中葉以降しか把握できない。あえてそれ以外の各種学校等を含む⁽⁴⁾カテゴリーを用いることによって70年代後半からの進学や就職以外の進路の傾向が確認できる。また、この雑多性は専修学校側のデータと付き合わせることで、一定程度補正可能である。

第三は、進路研究に「多様な学校」を位置づける可能性について検討することが可能となることである。専門学校については歴史的事情から制度としての専門学校の位置付けに関するものが主流であった⁽⁵⁾が、近年は専門学校での学び、取得できる資格、卒業生のキャリアの考察⁽⁶⁾に関する研究が比重を増やしている。特に後者の研究は専門学校の現代的役割や機能を明らかにする中で、職業教育機関としての専門学校の教育学的意義の解明に多大なる貢献をなしている。しかし、これらの研究は一方で専門学校の存立条件のマクロな状況と、事例としての大都市部の専門学校での学びや専門学校生の実態が無媒介に接続されており、具体的な専修学校を取り巻く諸事情と進学との関連を結びつけて理解することが難しい。

さらに多様な進路のあり方というのはたとえば多様な設置主体による職業訓練施設がある。この職業訓練施設は「養成工」を受け入れる「学校」として歴史的にも現代においても一定の位置を占めてきた。専門高校での職業教育以外の教育や職業教育機関での教育や訓練の幅やその社会的位置⁽⁷⁾については、いまだ未解明な部分⁽⁸⁾が多い。

更に言うなら、この分析を通じて「多様な学校」での学び、資格を取得し、働こうとする若者の地域移動あるいはローカルなトラッキングの構造の解明という意義をも有している⁽⁹⁾。

1. 卒業後の進路状況

(1) 中学校卒業後

全国的に高校進学率は70年代中葉には90%を超えたが、北海道の場合、70年代後半にずれ込む。その分北海道では教育訓練機関入学者が5%以上おり、無視できないウェイトで存在していた。しかし、80年代前半からは高校進学率は全国とほぼ同じ比率となるが、教育訓練機関への進学率は全国的には微減傾向が継続する中で徐々にネグリジブルになっていく（1%下回るのは97年）のに対し、北海道の場合は急激に減少していった。すなわち、全国では20年かけて約3%から1%未満に減少したのに対し、北海道では1978年から15年足らずで5%から1%未満になるのである。これは、公共職業訓練校の再編が大きな影響を与えているものと見るのが

妥当であろう。すなわち、政策として定員を充足することが困難となった高等課程（多くは中卒の1年課程）を減少させ、全体として高卒2年課程を設置する流れの中で地方都市の高等課程が急速に減少したのである⁽¹⁰⁾。

地方ごとに詳しく見ていくと、胆振、日高、松山、宗谷、網走、釧路、根室地方で全道平均を上回る比率を示していたが、90年代後半にはいずれも1%を下回ることとなった。胆振地方のみが独自の動向を示しているが、これは公共職業訓練校の高等課程が存続していることと准看護師養成の高等課程が一定数存続しているだけでなく、近年新たに設置されたことが大きく影響している。

表1 高校進学率（上段）・訓練機関進学率（下段）（単位：%）

年度		76	78	80	82	84	86	88	90	92	94	96	98	0	2	4	6	8	10	12	14
全国		92.6	93.5	94.2	94.3	94.1	94.2	94.5	95.1	95.9	96.5	96.8	96.8	97.0	97.0	97.8	97.7	97.8	98.0	98.2	98.4
		3.1	2.8	2.5	2.3	2.3	2.4	2.4	2.0	1.6	1.2	1.1	0.9	0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
全道		86.2	90.2	92.8	93.1	93.5	94.6	95.6	96.0	96.4	96.8	97.3	97.2	97.7	97.9	98.3	98.5	98.6	98.7	98.7	98.9
		5.8	5.1	3.2	2.8	2.3	1.9	1.3	1.1	1.0	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3
石狩圏	石狩	93.9	94.6	94.9	94.4	94.6	95.8	96.1	96.2	96.6	97.0	97.1	96.8	97.5	97.6	98.3	98.5	98.4	98.7	98.7	98.8
		2.5	2.4	1.8	1.8	1.5	1.0	0.9	0.8	0.9	0.7	0.8	0.8	0.7	0.7	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4
渡島		83.4	87.2	87.9	90.5	91.2	92.6	93.5	94.8	95.5	95.8	96.8	97.0	97.4	97.7	98.3	98.8	99.1	98.6	98.8	99.2
		5.5	5.0	5.3	4.0	3.6	3.5	2.6	1.8	1.1	1.3	0.7	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2
後志		87.8	92.9	94.5	94.6	94.2	94.8	96.2	96.7	97.2	97.4	97.8	97.2	97.9	98.0	98.3	98.7	98.9	98.8	98.2	99.3
		3.5	2.9	2.2	1.8	1.6	0.9	0.7	0.8	0.5	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.3	0.5	0.3	0.1	0.5	0.2
胆振		83.3	87.1	93.1	91.7	93.4	93.9	95.2	95.3	96.0	95.9	96.5	96.4	97.3	97.6	97.5	96.4	97.0	96.8	96.9	97.1
		7.9	7.3	2.5	3.7	2.1	2.2	1.6	1.3	1.3	1.3	1.2	0.7	0.6	0.6	0.4	1.8	1.3	1.9	1.7	1.5
空知		90.9	92.6	95.3	93.7	95.2	95.1	96.0	96.4	96.6	96.9	98.1	98.0	98.1	98.2	98.6	99.3	98.9	99.4	99.2	99.3
		3.7	3.5	1.8	1.9	1.6	1.6	1.2	0.7	1.0	0.7	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.0	0.1	0.1
上川		88.4	89.7	93.8	94.0	94.5	95.2	96.3	97.3	97.2	97.8	98.0	98.1	98.5	98.5	98.7	98.9	99.0	99.1	99.3	99.3
		5.9	7.0	3.4	3.1	2.9	2.0	1.4	0.7	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
オホーツク		80.0	87.1	92.4	93.3	94.1	94.6	96.0	96.0	97.4	97.4	97.9	97.9	98.3	98.2	99.2	99.1	99.3	99.4	98.6	99.5
		10.1	7.6	4.0	3.5	3.0	2.9	1.4	1.8	0.9	0.5	0.3	0.7	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.7	0.1
十勝		84.7	91.6	93.3	94.4	93.8	95.8	96.6	97.2	96.7	97.5	98.1	98.1	98.0	98.2	98.6	98.7	99.0	99.1	99.2	99.3
		5.9	3.6	3.3	2.4	2.6	1.7	0.9	0.9	0.9	0.6	0.5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	0.1	0.2	0.2	0.2
釧路		76.4	83.0	89.3	90.9	90.4	91.3	93.7	94.3	93.9	95.6	96.4	96.0	96.8	97.7	97.2	97.6	98.5	98.7	99.1	98.0
		12.7	11.2	6.0	4.1	4.0	3.7	2.7	1.7	2.0	1.0	0.9	0.6	0.5	0.4	0.1	0.5	0.3	0.1	0.4	0.4
松山		76.9	86.5	88.7	88.6	89.7	92.9	95.5	95.9	96.9	98.1	98.9	99.2	98.8	98.7	99.2	99.0	99.3	99.7	99.7	99.7
		6.8	6.7	5.2	4.5	4.1	2.0	0.9	0.8	0.4	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日高		73.5	85.5	87.5	90.1	90.9	92.4	92.7	93.0	92.6	93.6	95.6	96.6	97.2	97.8	96.1	98.1	98.3	98.4	98.9	98.3
		10.4	7.5	5.1	4.4	2.3	1.9	2.5	1.8	1.4	1.1	0.4	0.3	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2
留萌		82.8	91.4	93.7	94.0	94.4	95.5	97.5	97.3	98.4	99.1	99.1	98.9	99.4	98.7	98.7	99.5	97.8	99.6	99.0	100.0
		5.8	5.0	4.1	2.6	2.2	1.2	0.5	1.0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0
宗谷		81.2	84.0	90.7	91.5	90.3	94.8	97.5	95.5	96.5	97.1	97.5	98.3	96.8	97.1	98.4	99.3	99.2	98.9	99.2	99.1
		7.0	7.4	4.2	3.6	2.7	1.7	0.7	1.5	1.4	1.5	0.6	0.2	0.7	0.4	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0
根室		74.8	86.4	89.1	89.5	89.5	91.5	94.0	94.1	95.4	96.1	97.1	98.3	98.1	98.5	98.4	98.5	98.4	99.1	99.1	99.7
		6.4	4.7	4.9	2.8	3.4	2.7	1.4	1.0	0.9	0.5	0.5	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0

出所)『学校基本調査』各年版。北海道独自集計は北海道総合政策部情報統計局統計課作成。なお、表3及び表8以外はすべて出所は同じであるため、出所を逐一示さない。

表2 大学進学率(1 段目), 教育訓練機関進学率(2 段目), 専門課程進学率(3 段目), 就職率(4 段目) (単位: %)

年度		78	80	82	84	86	88	90	92	94	96	98	0	2	4	6	8	10	12	14
全国		32.8	31.9	30.9	29.6	30.3	30.9	30.6	32.7	36.1	39.0	42.5	45.1	44.8	45.3	49.3	52.8	54.3	53.5	53.8
		17.8	20.2	22.0	25.1	25.7	27.9	29.8	30.2	30.5	29.9	27.4	25.8	27.8	28.3	25.5	22.2	23.0	23.5	23.1
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.9	16.3	19.3	18.0	19.2	18.2	15.3	15.9	16.8	17.0
		42.8	42.7	42.9	41.0	39.5	35.9	35.2	33.1	27.7	24.3	22.7	18.6	17.1	16.9	18.0	19.0	15.8	16.8	17.5
全道		28.1	27.4	25.4	24.6	25.2	25.3	25.1	25.1	28.0	29.3	32.3	35.4	34.7	34.9	38.0	40.4	41.1	40.2	41.2
		18.8	19.8	22.3	22.7	25.0	26.7	28.0	30.9	31.1	32.7	31.9	31.3	32.0	33.5	31.8	29.9	31.2	31.4	29.0
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.5	20.0	24.0	22.3	24.1	22.7	21.5	22.7	21.5	21.9
		46.2	47.1	47.3	45.1	41.9	42.1	42.8	40.6	33.9	30.0	26.9	23.1	21.6	20.0	19.8	21.1	18.3	20.6	22.9
石狩圏	石狩	36.5	37.4	35.1	35.3	34.9	35.2	33.8	32.6	36.3	38.1	42.1	46.2	43.8	43.4	47.2	50.7	50.7	49.7	50.7
		19.0	18.1	23.0	24.2	28.1	29.8	31.8	36.0	33.5	30.8	33.5	30.9	34.0	34.8	33.0	29.6	31.7	32.3	28.7
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	19.7	19.1	20.6	21.1	19.6	19.1	19.2	20.4	22.1
		33.1	34.8	34.1	30.8	26.6	27.5	28.1	26.4	19.2	16.2	14.0	10.8	10.0	8.8	9.2	10.1	7.5	9.3	11.5
渡島		23.8	22.2	20.2	18.3	18.9	21.3	20.5	21.9	23.9	24.5	24.8	26.3	28.9	27.6	29.9	32.5	32.3	34.7	33.9
		12.8	19.1	19.6	21.5	24.1	24.1	27.3	27.7	29.3	29.6	28.4	30.2	26.4	31.4	29.6	24.0	26.3	26.5	26.3
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.3	16.6	20.6	17.9	22.9	24.0	19.2	23.3	20.6	21.1
		52.0	53.0	52.5	51.1	47.3	48.4	49.5	47.1	39.9	36.3	33.0	28.7	28.7	28.3	27.5	30.9	25.1	28.7	32.2
後志		24.5	22.7	21.1	20.8	20.4	19.4	19.7	18.0	21.6	22.8	28.1	28.6	27.8	28.4	30.6	31.9	33.9	32.5	35.3
		21.6	23.6	21.3	22.3	19.8	21.8	19.1	28.6	30.5	32.1	29.0	31.0	28.5	33.2	32.1	30.8	30.5	32.8	26.1
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	19.9	16.6	19.5	23.6	22.0	25.3	25.3	24.0	25.2	23.2
		48.6	49.7	53.6	49.9	48.9	49.0	50.2	48.9	40.4	38.0	33.2	32.0	27.1	26.0	28.1	29.3	24.8	26.5	29.3
胆振		29.2	28.9	22.8	22.3	21.8	20.4	21.2	20.9	23.8	26.0	28.6	31.7	31.3	31.0	30.7	33.6	30.2	28.4	30.1
		17.1	17.2	22.6	22.7	23.5	28.6	28.0	29.4	28.9	30.5	30.9	32.2	32.5	33.8	31.1	28.0	33.0	33.1	31.5
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	22.5	19.9	24.6	25.6	28.1	25.6	23.6	26.2	24.6	25.4
		49.4	50.6	50.3	49.0	47.0	47.0	48.3	47.6	41.0	37.4	33.9	29.2	28.1	26.8	28.7	31.0	27.2	31.0	32.7
空知		25.7	23.1	24.6	20.8	22.6	20.6	19.5	19.9	22.5	23.6	25.9	28.9	29.0	29.5	33.4	34.7	36.1	34.2	36.9
		19.1	22.8	20.5	23.7	25.5	25.5	27.2	30.8	32.4	34.1	32.7	33.7	32.2	34.2	30.9	31.5	33.8	32.0	28.8
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	23.3	24.1	25.1	22.5	28.5	27.1	24.8	22.8	27.7	26.7
		49.4	50.8	51.3	50.9	46.8	48.9	51.0	47.1	41.5	38.0	33.6	29.1	28.6	25.8	25.2	25.7	22.6	27.9	28.0
上川		26.7	25.0	23.1	21.8	23.5	21.6	22.2	22.4	24.7	25.3	27.8	31.4	31.2	31.3	35.1	35.8	36.1	37.6	36.2
		18.8	18.6	22.1	20.9	23.6	24.5	25.9	28.0	31.4	31.8	32.2	29.0	30.6	33.4	30.6	30.7	31.0	27.9	29.9
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	17.0	20.4	20.4	22.6	26.0	24.9	21.4	23.7	23.2	25.1
		50.6	51.1	51.7	50.4	47.4	48.1	49.5	47.6	40.4	37.8	33.1	30.0	26.2	25.3	24.5	26.0	23.8	25.7	28.9
オホーツク		26.6	26.0	23.1	22.5	23.9	25.7	23.8	24.6	25.7	28.4	29.8	31.0	29.1	30.8	32.2	35.0	35.9	35.1	35.7
		20.0	20.5	24.3	24.6	22.9	23.9	26.8	28.7	30.6	31.6	33.0	33.4	34.3	33.0	34.5	34.6	33.8	33.7	32.8
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	21.9	23.2	28.9	25.6	27.2	23.9	25.8	27.0	27.9	30.0
		48.9	48.5	49.9	49.3	47.7	46.4	47.2	45.4	40.4	37.2	32.6	28.8	27.5	26.6	24.8	25.4	25.1	27.3	29.0
十勝		28.5	27.6	24.4	24.7	21.8	21.5	21.9	21.7	24.7	24.1	26.7	31.7	30.8	31.5	33.4	35.2	37.3	35.1	35.4
		21.0	17.8	22.1	19.6	23.8	23.9	27.3	26.1	27.7	32.4	30.6	30.9	31.0	32.8	32.7	31.7	28.5	31.2	28.2
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	19.5	19.9	24.1	24.0	24.7	24.0	24.1	19.9	22.4	23.4
		48.1	49.9	51.1	49.0	47.7	50.4	49.1	48.3	43.7	40.0	37.7	30.5	29.1	25.7	24.3	26.7	27.5	28.5	32.8
釧路		20.5	20.2	17.5	15.8	19.4	19.3	19.2	21.0	22.8	21.5	24.6	25.4	26.1	25.5	28.2	29.0	31.6	30.8	31.7
		19.3	21.4	23.5	17.4	21.6	24.6	22.7	25.1	26.4	28.7	26.4	28.6	27.2	28.6	27.1	27.3	29.4	25.4	23.7
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	19.5	18.2	19.8	19.8	21.9	22.2	19.3	20.4	22.0	22.8
		54.6	55.4	55.6	55.5	50.0	51.9	52.2	51.3	45.8	37.6	35.4	33.9	34.1	30.4	32.1	33.3	27.7	32.3	39.5
地方圏	松山	15.2	17.0	13.9	13.6	11.9	12.0	13.1	15.4	15.3	14.4	16.0	17.2	17.2	19.5	16.6	14.1	26.4	23.7	23.3
		19.1	23.1	23.3	36.5	25.6	24.5	25.2	25.8	28.7	35.0	38.5	41.8	43.2	39.5	42.5	43.6	38.1	42.4	44.2
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	27.4	30.6	35.2	39.5	36.2	40.1	43.0	36.1	37.8	37.1
		61.5	57.7	62.0	55.6	55.2	59.0	58.2	57.3	54.6	46.8	40.2	33.1	32.2	30.6	32.4	33.3	28.7	30.2	31.3
日高		21.8	19.0	18.4	13.3	16.5	15.4	13.1	15.3	13.7	14.3	16.2	18.3	18.7	17.6	21.1	24.1	25.4	20.4	25.5
		19.8	23.2	21.4	24.8	24.5	28.5	27.1	29.2	30.2	29.9	27.9	32.6	32.7	35.9	31.8	33.7	32.6	35.8	35.7
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.2	22.4	28.9	22.1	33.5	18.2	28.4	29.3	31.6	34.1
		53.8	53.3	57.4	57.3	51.9	54.0	59.0	54.2	52.1	46.4	45.3	39.8	39.4	37.0	37.8	34.4	39.5	41.3	37.6
留萌		24.0	22.3	21.9	19.3	19.9	18.7	17.3	17.2	19.4	22.3	24.3	25.4	20.4	25.8	22.9	25.3	25.2	29.1	27.2
		21.4	19.5	25.5	23.9	21.9	28.9	29.6	29.5	31.4	33.8	27.9	35.0	33.1	31.6	32.8	33.6	40.9	40.1	31.2
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.1	13.0	26.6	31.4	30.1	29.3	23.9	31.9	36.0	27.0
		51.9	52.2	53.6	52.7	51.2	48.4	52.2	52.3	46.3	40.3	40.5	31.1	30.8	30.9	38.4	35.5	28.4	30.2	40.7
宗谷		22.1	20.4	23.2	16.5	19.3	18.3	22.4	23.2	25.4	22.0	26.4	27.7	24.8	27.3	33.2	34.9	37.2	28.3	34.4
		22.2	26.4	23.7	25.8	28.9	32.0	25.3	26.1	27.3	31.3	32.0	30.3	31.5	32.3	31.9	29.8	28.7	34.6	27.7
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	27.9	24.9	22.0	30.2	27.3	27.6	25.8	25.5	30.1	23.1
		51.8	50.7	49.3	49.0	48.4	47.1	50.4	49.0	45.8	41.2	39.2	36.6	38.1	34.2	27.6	31.6	30.2	36.3	35.5
根室		23.5	20.7	18.2	15.8	14.1	15.6	16.0	15.1	18.7	19.1	19.8	21.2	25.2	22.5	33.7	28.5	29.3	28.4	26.3
		22.4	23.6	23.6	26.5	27.4	28.9	29.6	30.2	30.3	36.7	33.6	38.4	31.5	35.3	25.2	32.3	31.1	31.0	33.9
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	29.4	25.7	33.0	28.9	32.9	23.9	23.5	21.1	29.4	31.4
		47.8	48.5	49.9	50.6	51.5	51.6	52.6	52.5	46.8	41.6	38.9	35.2	34.0	32.0	31.6	33.7	31.5	34.7	36.6

(2) 高等学校卒業後

高卒後の進学率等の動きを表2で見えていくと、90年代前半までは大学進学率が北海道より全国が5%程度高く、就職がその逆、教育訓練機関入学率⁽¹¹⁾は両者同様の動きを示していた。大きく変わるのはいずれ以降である。大学進学率は、全国で30%代前半から急上昇し55%に迫る勢いで上昇しているが、北海道の場合、25%程度からなかなか上昇せず、90年代後半になってから30%を超え、2008年に40%台に上昇した。この間、全国との格差は拡大してきたことになる。就職率は双方とも5%程度の相違を維持しながら40%台から徐々に落ち込んでいくが90年代中盤から両者共に急激に低下し始める。専修学校進学率は両者共に30%程度であったものが、大学進学率の上昇と共に全国で低下し始める。北海道ではこの間30%前後で安定的に推移している。すなわち90年前後に全国的には大学が拡張期に入り、就職率と教育訓練機関進学率の低下を補う形となるが、北海道の場合、進学率の相対的低さを就職率と教育訓練機関進学率でカバーしていることになる。また、表には示していないが、専門課程への進学が独立データとなる1996年以降を比較しても、全国で20%をピークに減少し始め、近年では15%程度から長期的に漸減する傾向を示しているのに対し、北海道では20%前後を安定的に推移し、必ずしも減少傾向を示していない。以上を便宜的に時期区分するとすれば、90年代前半までを高卒就職主流期、90年代後半から2000年代前半までを専門学校拡張期、2000年代中葉移行を大学進学普及期とすることが出来よう。

しかし、以上の動向は地方ごとに大きく異なる。まず、石狩圏は他の地域とまったく違う動きを見せる。特徴的なのは胆振⁽¹²⁾、釧路以外の地方都市圏（上川、空知、後志、オホーツク、渡島、十勝）である。これらの地域はそれぞれ一定の規模の地方都市を有し、それぞれの都市には一定の専修学校や高等教育機関が存在している。それ以外の地方圏（日高、桧山、留萌、宗谷、根室）の各地方は中核となる都市の規模も小さく、専修学校も数校以下である。高等教育機関も稚内を除いてない。各類型の時期ごとの比率を大まかに示すと以下の通りになる。

石狩圏は進学に限っては全国の動向と機を一にした動きを示している⁽¹³⁾。それ以外の地方は近年に至るまでなかなか大学進学率が高まっていない。先に指摘したように先行して専門学校への進学率が上昇し、いずれの地方でも30%程度の進学率を示していることが見て取れる。また、これらの地方では現在に至るまで一定の就職率を維持していることも強調されるべきであろう^{(14) (15)}。

表3 地方別の進学動向の特徴

	高卒就職主流期	専門学校拡張期	大学進学普及期
石 狩 圏	3.5 : 2 ~ 3 : 3	4 : 3 : 2	5 : 3 : 1
地 方 都 市 圏	2 : 2 ~ 2.5 : 5	2 ~ 2.5 : 3 : 4	3 : 3 : 3
地 方 圏	1.5 ~ 2 : 2 : 5	2 : 3.5 : 3	2.5 : 3 : 3.5

注) 大学進学率と教育訓練機関、専門学校進学率、就職率の割合を近似的に示したものである。

出所) 表2をもとに作成。

2. 専修学校の設置状況と進学者の地域別特徴

(1) 設置状況

表4は北海道全体の専修学校に関するデータである。設置主体別に見ると国立が大幅に減少し、公立、私立共に増加するも近年にいたって当初の数と同程度に落ち着いている（公立15校→20校→16校、私立157校→190校→158校）。ただし、それぞれピークは異なり、私立で1990～91年、公立で1996～2003年である。学科数や生徒数の増減は、学校数とは別の動きを示しており、学科数のピークは2002年の505学科、生徒数のピークは2004年の39,482名である。学科数が増加しているのはもっぱら専門課程である。また生徒の男女比をみると当初かなり女子比率が高い（1980年で70.0%）が、生徒数の増加と共に男子もその比率を上げ2004年には40数%を占めるようになるが、その後の減少率も男子が高く2014年には40.5%に下がっている⁽¹⁶⁾。

表4 学校数等の推移・専修学校

年度	学校数				学科数				生徒数							卒業 者数
	計	国立	公立	私立	計	高等 課程	専門 課程	一般 課程	計	男	女	高等 課程	専門 課程	一般 課程		
1976	12	3	0	9	24	1	18	5	1 695	339	1 356	472	1 024	199	...	
77	124	15	0	109	325	58	200	67	16 976	3 968	13 008	4 548	10 683	1 745	7 627	
78	141	14	7	120	369	66	234	69	19 575	5 244	14 331	4 597	13 164	1 814	9 129	
79	153	14	8	131	371	71	244	56	20 817	5 953	14 864	4 918	14 413	1 486	10 330	
80	160	12	10	138	376	72	253	51	20 849	6 250	14 599	4 674	14 936	1 239	10 712	
81	185	13	15	157	415	87	286	42	23 112	6 413	16 699	5 975	16 014	1 123	10 802	
82	190	12	15	163	426	85	300	41	23 266	7 036	16 230	5 731	16 575	960	11 828	
83	190	11	15	164	406	84	286	36	23 311	7 291	16 020	5 755	16 697	859	11 713	
84	189	10	15	164	411	85	285	41	22 895	7 369	15 526	5 580	16 530	785	11 980	
85	194	10	15	169	405	82	286	37	22 968	7 732	15 236	5 607	16 592	769	11 430	
86	198	9	15	174	412	80	296	36	24 607	8 739	15 868	5 462	18 316	829	11 218	
87	198	8	15	175	405	70	302	33	26 514	9 849	16 665	5 328	20 416	770	11 811	
88	201	8	15	178	430	70	331	29	27 571	10 888	16 683	5 302	21 734	535	12 493	
89	206	8	16	182	446	69	346	31	28 779	11 834	16 945	5 274	23 008	497	13 094	
90	214	8	16	190	455	68	360	27	30 939	13 273	17 666	5 156	25 358	425	13 508	
91	214	8	16	190	456	67	362	27	33 462	14 982	18 480	5 101	27 987	374	13 756	
92	210	8	16	186	440	59	352	29	36 025	16 333	19 692	5 023	30 594	408	14 770	
93	208	8	16	184	439	55	359	25	36 884	16 582	20 302	4 790	31 664	430	16 333	
94	200	8	18	174	427	54	351	22	36 050	15 848	20 202	4 562	31 093	395	17 183	
95	203	8	19	176	426	51	354	21	35 469	15 362	20 107	4 287	30 809	373	17 211	
96	205	8	20	177	446	50	378	18	37 303	16 226	21 077	4 277	32 755	271	16 031	
97	204	8	20	176	461	48	394	19	37 909	16 476	21 433	3 929	33 738	242	16 051	
98	204	8	20	176	468	45	407	16	36 773	16 055	20 718	3 413	33 154	206	16 647	
99	205	8	20	177	483	43	426	14	37 065	15 816	21 249	3 168	33 749	148	15 411	
2000	202	8	20	174	476	42	419	15	36 500	15 111	21 389	2 974	33 345	181	15 707	
1	197	7	20	170	487	39	433	15	35 599	14 537	21 062	2 576	32 835	188	15 543	
2	195	6	20	169	505	36	453	16	36 142	14 908	21 234	2 210	33 632	300	15 072	
3	191	4	19	168	489	32	440	17	39 046	16 977	22 069	1 948	34 866	2 232	14 955	
4	185	1	19	165	474	31	428	15	39 482	17 226	22 256	1 798	35 827	1 857	17 219	
5	184	1	18	165	485	31	440	14	38 766	16 906	21 860	1 640	35 493	1 633	17 320	
6	184	1	19	164	487	29	444	14	37 498	16 245	21 253	1 517	34 387	1 594	16 953	
7	184	1	19	164	492	30	448	14	35 635	15 202	20 433	1 492	33 015	1 128	16 258	
8	184	1	17	166	482	27	441	14	33 779	14 250	19 529	1 567	31 153	1 059	15 481	
9	182	1	17	164	483	26	444	13	32 689	13 686	19 003	1 513	30 105	1 071	14 559	
10	185	1	17	167	466	23	429	14	33 086	13 942	19 144	1 409	30 568	1 109	13 928	
11	180	1	17	162	442	24	406	12	33 306	14 124	19 182	1 317	31 093	896	13 643	
12	180	1	17	162	429	21	397	11	32 578	13 465	19 113	1 303	30 561	714	13 449	
13	179	1	16	162	426	19	399	8	32 590	13 332	19 258	1 259	30 583	748	13 226	
14	175	1	16	158	374	17	377	9	31 388	12 699	18 689	1 278	29 444	666	12 975	

以上をふまえて、専修学校数及び生徒数の地方別特徴を見ていこう（表5、表6）。先の進路の地域類型と同じような特徴を指摘しうる。すなわち、専修学校が集中する石狩圏、および10～20校程度存在している地方都市圏、ほぼ存在していない地方圏である。地方都市圏では80年代に若干増加するがその後の推移は学校数学科数共に安定的に推移している（最も近年にいたって微減傾向が続いているが）。地方圏では数校存続しているか否かである。集積が著しく、かつ増減が激しいのはもっぱら石狩圏である。学校数で50%程度、学科数で2/3が石狩圏に集中している。その石狩圏では80年代に学科数が155から228にまで増加する。90年代もその上昇率は変わらず2002年には322を数えるようになる。その後、微減と微増を繰り返し現在に至っている。また、90年代前半までは学校数の増加と学科数の増加が比例していたが、90年代後半にいたって学校数はむしろ減少傾向にあるにもかかわらず学科数が増えている。すなわち1校あたりの学科数が増加しているのである。

[illegible]

生徒数の特徴を見ると全道的には1980年からピークの2004年に約2倍となっている。地方別の専修学校数の増減が生徒数の増減に与えた影響であるが、ピーク時に対して全道、石狩圏、地方都市圏の多くが20～30%減少させているなかで、オホーツク（網走）、十勝、釧路地方が現状を維持もしくは増加傾向となっている。地方圏の多くは日高地方と松山地方を除き完全に存続不可能な状況になっている。男女比でみると当初70%を超えていた女子の比率が徐々に低下し56.4%までに低下していることから、この間の増加に寄与したのは男性であったことがわかる。この動向を踏まえて地方別に特徴を見ていくと、専修学校制度発足当初は石狩地方をのぞくすべての地方で80%以上、80年代になっても石狩地方と胆振地方を除いて70%以上が女子によって占められていた。すなわち地方都市圏、地方圏にとって専修学校は「女子向き」の進学先、言い換えればローカルなトラッキングの不可欠な構成要素だったのである。しかし、生徒数のピーク時には地方都市圏で70%前後、石狩圏で50%近くなり、男子の比率が徐々に上昇していることがわかる。

表7 専修学校生徒数（上段）、教育訓練機関進学者数（下段）（単位：人）

年度		79	81	83	85	87	89	91	93	95	97	99	1	3	5	7	9	11	14
全道		19777	22117	22346	22968	26514	28779	33462	36884	35469	37909	37065	35599	39046	38766	35635	32689	33306	31388
		13330	14283	15768	16049	20279	20096	23874	24864	23085	22286	19461	19278	19544	17824	15779	13775	14354	12599
石狩圏	石狩	49348	11039	11198	12114	15093	17732	21911	24649	23765	26088	25650	24654	28437	28463	26084	23834	23768	22909
		3373	3477	4248	5132	7167	7209	9700	9872	8943	8560	7510	7480	8011	7278	6488	5643	6138	5470
地方都市圏	渡島	1081	1404	1292	1514	1447	1346	1597	1699	1655	1960	1965	2002	2000	1960	1917	1460	1542	1351
		1068	1355	1436	1407	1753	1763	1085	2136	1971	1895	1636	1354	1505	1291	1201	904	927	869
	後志	298	700	721	681	887	727	675	662	650	695	622	601	471	439	398	378	376	361
		858	847	935	967	867	797	1085	1191	1178	1074	927	1024	980	891	751	611	638	446
	胆振	1366	1604	2433	2520	2547	2315	2519	2662	2286	2149	2107	1918	2197	2198	1982	1905	1986	1669
		977	1224	1417	1368	1780	1882	2005	2055	1741	1653	1574	1422	1363	1360	1076	963	1096	1002
	空知	550	730	755	763	835	951	889	1040	1193	1209	1152	1205	1139	1074	893	822		793
		1573	1544	1632	1506	1584	1690	1690	1791	1734	1563	1422	1409	1299	1189	1031	948	957	737
	上川	2963	3242	3132	2949	3101	3134	3319	3589	3437	3276	2866	2808	2665	2574	2334	2267	2498	2175
		1426	1626	1778	1491	1966	1889	2136	2297	2166	2297	1718	1894	1736	1654	1471	1400	1293	1223
	オホーツク	1438	1252	1107	1035	1067	1182	1196	1187	1158	1005	1189	959	691	704	661	600	734	758
		974	1078	1223	1052	1220	1153	1360	1448	1376	1340	1222	1272	1299	1131	1066	860	877	782
	十勝	464	528	539	476	692	643	565	502	425	423	581	572	553	533	624	559	621	570
		981	879	1012	865	1333	1329	1339	1378	1321	1363	1228	1254	1238	1143	1086	957	963	848
	釧路	1351	1264	890	698	670	616	633	714	724	664	748	664	592	594	534	633	672	645
		877	806	692	852	1058	922	995	1117	1091	1012	847	838	836	791	634	591	592	460
地方圏	松山	31	23	23	19	19	20	17	21	23	10	78	115	116	116	81	73	65	66
		225	193	277	171	190	202	199	257	259	258	249	227	212	150	144	129	113	106
	日高	68	63	66	62	41	20	60	91	92	95	94	94	174	106	127	158	171	91
		189	249	277	280	300	324	299	311	319	351	293	302	292	226	174	185	166	183
	留萌	150	136	109	88	78	74	68	55	49	51	0	0	0	0	0	0	0	0
		217	292	206	267	335	298	257	188	278	275	245	226	217	210	162	186	196	118
	宗谷	179	102	81	49	37	19	13	13	12	14	13	7	11	5	0	0	0	0
		351	365	394	371	345	306	325	324	335	296	267	242	275	242	181	138	144	125
	根室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		241	348	291	320	393	332	375	384	373	349	323	333	281	268	314	260	254	230

また、石狩圏への集中率を見ると、80年代は50%程度であったが、徐々に上昇し90年代には60%を大きく上回るようになり、2002年からは70%を超えるようになる。なかでも男子の集中率は高く2004年時点では全道の男子のうち80%弱が石狩圏に集中していたのである（2014年では75.0%）。こうした傾向は表7からも見て取れる。石狩圏は進学者に対し在籍者が圧倒的に多いのである。それに対し地方都市圏は地元充足率が高い地方と低い地方に分かれる。空知、後志、オホーツク（網走）、十勝地方は進学者が在籍者を上回り、胆振、渡島、上川、釧路はその逆である。先に見たようにオホーツク、十勝の学校数が減少しなかったのは、こうした事実を反映してのことであろう。後者では地元で一定数進学可能な様子が見て取れるのである。それに対し地方圏はすべて進学を期に地元から流出していることがわかる。

(3) 進路・進路指導への影響

各地方における専修学校の存立状況やその変動は大学進学や就職の動向とあいまって、高校生の進路や高校における進路指導に大きな影響を与える。

石狩圏では大卒の好調な就職実績から、かなりの高校で進路指導を大学進学へシフトさせている。医療系をのぞき、専修学校への進学は大学進学を想定し得ない生徒に限られる（ある中堅校の元進路指導部長）⁽¹⁷⁾ という。それに対し、地方都市圏では状況はずいぶん異なる。表8は釧路市内の高校の進路状況をまとめたものである。6つの事例の中にはトップの進学実績を示している学校は含まれていない。中堅校クラスでかつては40%台、2010年の実績でも30%台の進学率を示しているのである。医療、福祉、教育系を中心としたローカルトラックや石狩圏への進学が想定しうる。更に地方圏になるととりわけ就職状況に大きく左右されるが、進学の場合その多くが隣接する地方または石狩圏への専修学校が主な進学先となる。年度により傾向は大きく異なるようであるが、医療、福祉、教育に加え、理美容、調理等いわゆる「手に職系」の学科は近隣の地方都市、石狩圏への進学はネイル、ブライダル等それらよりも「見栄えのよい」学科が選択されることも多い（ある渡島管内の進路担当高校教員）ようである⁽¹⁸⁾。

表8 釧路市内各校の進路状況

（単位：%）

	大学進学			専修・専門学校進学			就職	
	2004年	2010年	2015年	2004年	2010年	2015年	2004年	2015年
A 高（普）	38.5	43.0	33.5	30.7	33.6	31.9	23.7	30.2
B 高（普）	27.5	27.4	32.0	44.4	30.5	34.0	17.3	27.9
C 高（普）	12.1	15.9	17.3	41.6	35.2	28.7	31.8	41.3
D 高（普）	8.3			25.0			52.5	
E 高（専）	9.5	10.7	14.2	25.4	22.7	29.0	40.2	56.8
F 高（専）	12.7	10.1		22.2	25.6		60.5	

引用）2004年および2010年に関しては上原（2013）、2015年のデータは各校HPより。

まとめにかえて

小論で明らかにしえたことは、基本的には統計データに基づいて分析したものである。この範囲でも全国的動向に対する北海道の特徴、さらに北海道内の地方（類型）ごとの特徴が一定程度明らかになったといえるだろう。中卒後の進路に関しては職業能力開発政策の影響を強く受けていること、高卒後の進路に関しては専修学校の存在感が全国に比して高いのが北海道の特徴であった。また、札幌を中心とする石狩圏とそれ以外の地方で状況は大きく異なっていた。前者の場合、全国以上に大きな変動の渦中にある。後者では、全国に比して専修学校の需要や社会的影響力が相対的に高いと考えてよいであろう。事例に即した検討は今後の課題となるが、医療・福祉系を中心に専修学校は主要都市に現代においても一定の重みを持って存続し続け、地元や周辺から一定の生徒の受け入れ先となっているのである。また大きな男女差も確認しえた。地方都市では「女子向き」の進学先であったのに対し、かつては北海道全体の専修学校の男子生徒の80%が石狩圏で学んでいたのである。地方都市圏、地方圏の若者は専修学校での学びに何を求めているのか、今後明確にすべき大きな論点であろう。

〔付記〕

本稿はJSPS補助金（基盤（B）：課題番号：15H03466）による研究成果の一部である。

注

- 1 本稿が対象としているのは、あくまでも専修学校等のデータである。しかし、明らかに文脈上専門課程が対象である場合は、特にことわることなく専門学校と表記することがある。
- 2 西から述べていくと函館を含む「渡島」、室蘭・苫小牧を含む「胆振」、小樽を含む「後志」、岩見沢を含む「空知」、旭川を含む「上川」、帯広を含む「十勝」、網走を含む「網走、オホーツク」、釧路を含む「釧路」である。なおこの分類には稚内を含む「宗谷」も入るが便宜上ここには含めない。
- 3 「松山」、「日高」、「宗谷」、「留萌」、「根室」の諸地域である。
- 4 時期により異なるが、専修学校一般課程等には一般課程、各種学校、予備校、公共職業訓練機関（1999年に独立）等が含まれる。
- 5 例えば韓（1999）。
- 6 こうした研究の代表はなんと言っても植上（2011）であり、その特徴はいみじくも副題に表現されている。また、乾（2006）のなかでも専門学校に通う若者の実態が紹介されている。とはいえ、60年代から70年代にかけての各種学校時代、そこに通う生徒の実態の解明が目指された。その代表的なものが野間教育研究所（1972）である。他に原、草野、梅津（1975）がある。
- 7 たとえば上原（2013）。
- 8 それはまた未解明なまま「周縁」化されてきたということも可能であろう。なお本研究は〔付記〕でも述べたようにJSPS補助金（基盤（B））の一部であるが、そのテーマは「学校教育の“周縁”の現代的可能性に関する複合的研究」である。
- 9 地方進学校からの学歴取得とローカルトラックの構造の解明に関しては吉川（2001）（2014）がある。なお、吉川氏による事例分析と統計分析の間には専門学校の評価も含めて、若干矛盾があると思われるが、本格的な指摘は他稿を期したい。

- 10 この間の北海道の公共職業訓練に関する政策の展開は木村（2010）を参照されたい。なお、政策が先行したか実態が先行したか評価は難しいが、中卒後クラスに2名程度は「高校進学や就職とは異なる“進路”に進む生徒がいた」時代から、高校以外の受け皿がないという社会的イメージが定着した時代になったことの意義は相当に大きいように思う。この論点に関しては香川・児玉・相澤（2015）が参考になる。
- 11 なお、ここにはいわゆる「予備校」が含まれている。1999年からはいわゆる「前年度卒業者のうち大学等入学志願者」として「浪人数」が独立データとなるので、その影響を排除することは容易であるが、それ以前に関してはかなり難しい。しかし、近似値を試算することは可能である。上記データから専修学校入学者を差し引いたデータが高校卒業後、予備校を含む「各種学校」への進学者を近似的に示している。この数値は80年代に5%台から10%程度まで急拡大し、その後8～9%台と高止まりし、90年代後半に6%台にまで低下する。また、その値は99年以降の「前年度卒業者のうち大学等入学志願者」の数値とよく合致する。しかし、時期をさかのぼればさかのぼるほど、「各種学校」は多様で活発な動きを示していること、いわゆる「予備校」もすべてが各種学校として認可を受けているわけではないこと、「予備校」には大学受験以外のものも含まれていること、高校の回答数と専修学校の回答数の性格の違いなどの理由から、それはあくまでも近似値としかいえない。とはいえ、先ほど示した数値の変化は、私たちがよく知る「浪人」の動向の実感とよく合致することもまた事実である。より厳密な検討を俟ちたい。
- 12 胆振地方の独特の動きは80年代前半の日本工学院の開校の影響も大きい。
- 13 なお、石狩地方の就職率の低下は全国以上であり、年度によっては10%以下となっていることにも注意すべきであろう。こうした動向が継続するならば、石狩圏の高校関係者や高校生が“高卒後直ちに就職する”という高卒就職主流期には当たり前であった事実に関心を持つことがますます困難となろう。
- 14 浅川（2009）。
- 15 更に指摘するならば、地方圏では年度による変動が比較的大きい。その原因については後述する。
- 16 なお、全国的には学校数のピークは1998年で3,573校、生徒数のピークは2004年の79,2054名である。男女比に関しては北海道とは異なり1980年時点の女子比率は66.5%で北海道ほど高くはなく、90年代前半にはほぼ同数となる。その後やや男子比率は下がるが、6%程度の相違である。
- 17 植上も同様の事実を指摘している。
- 18 この教員によればオープンキャンパスのあり方などを含め、検討課題は多くあるようである。

参考文献

- 浅川和幸「北海道の現状」, 労働政策研究報告書No.108『地方の若者の就業行動と移行過程』第1章所収, 2009年。
- 乾彰夫編『18歳の今を生きぬく』青木書店, 2006年。
- 植上一希『専門学校の教育とキャリア形成 進学・学び・卒業後』大月書店, 2011年。
- 上原慎一「釧路地方の雇用・労働市場と人材育成」『産業教育研究』43-1, 2013年。
- 同 「養成工制度」日本産業教育学会編『産業教育・職業教育学ハンドブック』大学教育出版, 2013年, 第5章所収。
- 香川・児玉・相澤『＜高卒当然社会＞の戦後史』新曜社, 2014年。
- 木村保茂「公共職業訓練の今日的特徴と課題」北海学園大学開発研究所『開発論集』第85号, 2010年。
- 韓民『現代日本の専門学校』玉川大学出版部, 1996年。
- 倉内・神山・関口「各種学校生徒の意識調査」野間教育研究所『野間教育研究所紀要』第28集, 1972年。

原・草野・梅津「高校職業教育改革に関する若干の提言」日本教育学会大会研究発表要項34, 1975年

(http://ci.nii.ac.jp/els/110001174132.pdf?id=ART0001433561&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1472542664&cp=, 2016年 8 月29日アクセス)

吉川徹『学歴社会のローカルトラック』世界思想社, 2001年。

同 「それぞれの地元の唯一の解」 荻谷剛彦編著『「地元」の文化力』河出ブックス, 2014年。

The trend of the amount who goes the vocational training school, miscellaneous school, and others in Hokkaido prefectures

Shin-ichi UEHARA

Key Words

vocational training school, specialized training college, location of professional training college, disparity in Hokkaido prefecture

Abstract

The aim of this article is to consider of the amount about the young people who choice the “various course” based on survey. In Japan, it is well known the amount of young people’s course based on “School Basic Survey”. But this survey make clear the amount of people who goes the school of higher grade or who get a job. Moreover, the definition of the “school of higher grade” is very rigid. It is limited the schools which are based on School Education Act First article (it is called “ichijo koh” in Japanese). In the same way, the definition of who get a job is limited permanent employee (it is called “seisyain” in Japanese). Various schools such as specialized college, vocational training schools, schools that established by companies or trade association and who get atypical employment had been excluded (resent, professional college and who get atypical employment has been made clear).

This paper tries the amount who goes various courses young people, especially special training college and so on with the variation in Hokkaido prefecture.